

 **ゴール:** 地図を見ながら、たずねられた場所まで迷わず案内できる

場面 駅前で外国からの旅行者に道を聞かれました。地図はあなたの頭の中だけ——ことばで案内しよう。

旅行者役(先生 or ペア): Excuse me. How can I get to ~? (行き先は当日カードで決定)
案内役: Go straight. / Turn right at ~. / It's on your left, next to ~. で案内→最後に Have a nice day!

準備 テストまでにすること(授業1回+帯)

練習用マップでペア練習(本サイト「道案内スキット」参照)。当日は行き先カードをその場で引く——どの場所も案内できる状態が準備完了のサイン。

本番 時間: 1組90秒 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事!)
正確さ	今回の言語材料が正しく使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	あいづち・聞き返し・相手への質問があったか

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよく使おう。

ねらい

このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	空間情報を言語化し、相手の理解を確認しながら伝える力(実用的やり取り)
なぜ必要か	道案内は「英語が実際に役立つ」ことを体感できる数少ない中学題材。当日カードで行き先を決めるため、丸暗記でなく地図→言葉の変換力が測れる。聞き返し対応を組み込むことで、実際の観光地で起きる会話の不確実性を安全に経験させる。

評価

ルーブリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 迷いなく目的地に着け、聞き返しにも対応できた	B(2点)＝評価規準 目的地に着ける案内ができた	C(1点) 案内が成立しない
正確さ	A(3点) Turn/on your/next to等の形が正確	B(2点)＝評価規準 誤りはあるが道順は通じる	C(1点) 通じない
流暢さ	A(3点) すらすら・自然な相づち	B(2点)＝評価規準 考えながらでも完走	C(1点) 停止
態度	A(3点) ジェスチャー・確認・親切な一言	B(2点)＝評価規準 落ち着いて対応	C(1点) 応答放棄

✓ C→Bの手立て: 条件を1つ減らして再挑戦の機会を(例: メモを見てよい・時間を短く)。再テストはB上限にせず、できた姿をそのまま評価する

運用

当日の流れ(2コマ)

1	ルーブリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(1組90秒)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ 旅行者役がわざと1回聞き返す(Sorry?)台本にしておく、リカバリー力=本当の会話力が測れます。ALTがいる日は旅行者役をお願いすると本番感が跳ね上がります。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
					/12	
					/12	
					/12	
					/12	
					/12	
					/12	
					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。